

第3回 鴨川市前原横渚海岸周辺の魅力づくり推進委員会 会議録

■開催日時・場所・出席者

日時 : 令和元年7月24日(水) 午後2時00分から午後4時00分まで

場所 : 鴨川市役所7F会議室

出席者 : 以下のとおり

【出席委員】

No.	氏名	備考
1	鈴木 健史	(一社) 鴨川市観光協会 会長
2	藤巻 武仁	(一社) 鴨川市観光協会 副会長
3	久根崎 達郎	鴨川温泉旅館業協同組合 専務理事
4	水谷 好伸	鴨川ライフセービングクラブ 会長
5	川井 幹雄	鴨川サーフィングクラブ 会長
6	渡辺 淳一	城西国際大学観光学部 教授
7	橋詰 良子	地域おこし協力隊
8	大内 洋	公募による市民
9	岡野 大和	公募による市民
10	川上 周一	公募による市民
11	林 良樹	公募による市民

【欠席委員】

No.	氏名	備考
1	徳山 英樹	鴨川市漁業協同組合 総務部長
2	立野 健児	鴨川ライオンズクラブ若獅子支部

3	原田 洋美	NPO 法人鴨川ガイド協会 理事
4	鈴木 淳	学校法人文理開成学園文理開成高等学校 理事長・校長
5	中橋 健二	鴨川シーワールド 営業推進支配人
6	菅原 明善	(一社) 鴨川市青年会議所 副理事長
7	内山 達也	城西国際大学観光学部 准教授
8	庄司 修	公募による市民
9	村永 信吾	鴨川市健康づくり推進協議会 会長
10	福田 雄一郎	鴨川市商工会 前青年部長
11	浅田 朋靖	鴨川市商工会 商工会青年部長

【業務委託請負業者】

No.	氏名	備考
1	刈込 信道	鴨川観光プラットフォーム株式会社 事業推進統括
2	豊島 まゆみ	豊島まゆみ事務所 代表 鴨川市プロジェクトマネージャー
3	井上 裕史	株式会社 乃村工藝社 クリエイティブ本部 第三統括部 デザイン7部 R &D グループデザイナー

【市行政関係者】

所属・職	氏名	備考
鴨川市建設経済部長 兼商工観光課長	佐久間 達也	事務局
鴨川市建設経済部 商工観光課長補佐	小柴 則明	事務局
鴨川市建設経済部 商工観光課長補佐	矢代 忠恭	事務局

鴨川市建設経済部 商工観光課 観光振興係長	影山 光一	事務局
鴨川市建設経済部 商工観光課 新たな観光づくり係 係長	濱野 和明	事務局

■配布資料

- ①次第
- ②席次表
- ③プロジェクト概要書 ※豊島まゆみ事務所×乃村工藝社提供資料

■会議要旨

1 開会（午後2時00分）

2 委員長あいさつ

具体的な計画案の検討という形で、かなり短い期間でまとめてきた。最初の目標である魅力づくりに向け、きちっと具現化していくということで、いろいろな方が関わっていただいている。皆さんには引き続き、忌憚のない意見をいただきたい。

議事録署名委員については、林委員と水谷委員にお願いしたい。

3 議事 ※進行：渡辺委員長

フィッシャリーナと旧市民会館の二本立てで計画を策定していたが、旧市民会館の方針が定まらないため、旧市民会館側での動きを起こせない状況。

フィッシャリーナに関しては、矢代補佐から法的な見解や、漁協との協議の結果の報告を経て、漁協所有地を除いた土地以外での計画検討を行ってきた。

その後のうごきについて説明をお願いしたい。

○豊島 資料に添って説明

- ・前回までのレビューについては、旧市民会館辺りまでを考えるとということ、フィッシャリーナから遅滞なく実施していくということ、フィッシャリーナでアクティビティやカフェが必要など、いくつか要点が出された。また、土地の制約に対しての調整や、もう試行はやめる、結局誰がやるか、などの意見が出された。今一番急いでいるのが、年度内で竣工するための設計であり、株式会社乃村工藝社の井上氏に参加してもらっている。

- ・誰かという点について、当初は、観光プラットフォームを主体として、チーム創生を行っていくというイメージであったが、それが困難であることから、来年度、実際事業を立ち上げられる候補者を集めてきたので報告する。

- ・年度ごとのスケジュールの確認。（資料参照）

5年間の事業のうち今年は4年目となり、試行（事業化準備）となる。今年度、ハード整備が終わる

と、来年度は事業性の検証をしていく。私（豊島氏）が担当していることは、プロジェクトマネジメントの体制構築と民間資金投入であり、この中で基本設計、実施設計について市に対し実質的な支援業務とメンバー集めをしていく。チャレンジショップについても候補や要件定義の支援を行っていく。

ハード整備については、フィッシャリーナと機械設備となっている。10月くらいに入札にかけ、2月の終わりを目標にして、3月には竣工させ、4月から事業化する予定。

- ・今まで指摘があったのが、委員会の意見（市民の意見）を踏まえること、また、初年度のトーマツやビジョンクエストから整理されたものを踏まえること。試行という点では、2年目に空き物件情報であったり、グランピング備品（コンテナ、トレーラーハウス、キッチンカー、8人用テント2張、6人用が2張など）海辺クラブ備品として、サーフィン大人用ウェット60着、子供用20着、ボード20本が購入されており、これらを活用するという。また、温水シャワーが必要とも言われたが、まずはゾーニングを書くこと。収益が見込めそうか、また、予算の範囲内でどこまで整備できそうかを報告する。

- ・とにかく実行部隊集めを行っており、全体をコントロールするための人材を、豊島氏以外で2名、また、実質的に開業準備室というイメージが必要であり、鴨川に住んでも良いという候補者を3名（aは釣り、bとcは海が好きで住んでも良いとのこと）探してきた。移住者となるが、3人分の人件費を稼ぎ出すことは難しい。チームリーダーに中田氏、データ担当に佐藤氏、情報発信に橋爪氏を依頼している。

- ・さらに、飯田ベンジャミン（平塚地区在住）にも依頼している。彼は、ニュートラルなポジションにありナチュラルビルダーという感じ。ちなみにサーフィン愛好者である。フジロックフェスのキッズエリア担当をしていた。海辺でも山辺でも楽しい発想の持ち主。

- ・シェフとの連携は、吉岡氏、石原氏（みんなみの里開発工房器具を使用）。

- ・ハードという面では、企業からすれば今回の金額は大きくないが、鴨川のポテンシャルがあること、地方創生の事業でもあるということから、投資環境の構築を乃村工芸社が引き受けてくれた。

駐車場だけでは、活気感がない。スタイリッシュな青島ビーチパークのようなイメージにしたい。アクティビティを行うには常駐し受付をしなければならず、小さくて良いのでセンターハウスを設置し、雨の日でも親子連れでも行けるようなカフェが必要であるといったことを中心に今日時点の方向性を示してみた。この構成をもとに議論いただき、まとめた後、入札等の準備に入っていく。

- ・ウェルネススポーツ、アクティビティ、飲食、コミュニティといった取り組みについて、常設型の施設の必要性も想定している。

- ・マリンアクティビティとサイクルステーション、簡単に設置できるボルダリング、スリーオンスリー、スケートボードパークなどの意見があったので、優先順位を決めて事業計画に入れていく。

- ・飲食については、観光協会が夏期期間で実施しているバーベキュー以外に、オフシーズンでもできないかといった検討や、グランピングのグッズを使いどのように活用法なども。

- ・文理開成の空き教室を活用したシェアハウスも整ってきている。受付管理も遠隔で対応できるようになっており、これも計画に含めていく。

- ・レイアウトについては、川上委員、林委員の意見を踏まえて乃村工芸社にパースを書いてもらったので、乃村工芸社から説明をお願いしたい。

○乃村工芸社 井上氏 自己紹介、会社概要説明

当社は、空間づくりを通じて魅力を作る会社。菊人形、万博、インテリア、ホテル宿泊業、物販、博

物館など、設計、運営、企画づくりからトータルで手掛けている。

エリア全体で魅力を高め、滞在時間をどう増やすかという取り組みに注目しており、やりがいを感じている。鴨川市は、観光客視点というよりも、住民視点を重視しているということで、地域創生にとって一番大切なところであると感じている。

○乃村工藝社により概要書をもとに説明

- ・これから海岸が整備されたときに、歩行者のアプローチに対し、角地（フィッシャリーナ入口）であるエリアの顔づくりは重要になると考えている。道路でエリアが分かれなように、サーフィンのビギナーズエリアをつなぐようにしたい。

- ・フィッシャリーナは、最大2メートルほどの段差があり、階段等を設ける。

- ・漁協の所有地である将来活用エリアは、滞在エリアに向いている。

- ・パーキングエリアについては、車のアプローチをすべて西側に寄せ、歩車分離で安全性に配慮する。

- ・中心となる機能として、核となる建物施設を設置する。1200㎡程度、コンテナ的な建物でコストを抑え、機能（倉庫、カフェ、観光案内、温水シャワー）を果たしていくという考え方。

- ・タイニーエリアは、800㎡ほど。小さな規模の店やスペースで稼ぐエリアとし、飲食機能をもたせられないかと考えている。

- ・フロントエリアは、車いす、ストレスのない優しい散歩道という感じでバリアフリーにも配慮する。

- ・駐車場については3,000㎡、80台としている。これ以外に、漁協が網干しで使用している土地3,800㎡も使用し、繁忙期と閑散期に合わせフレキシブルにエリアを展開する。

- ・駐車場の整備は、今後の活用を考え、アスファルトを敷くというより、砕石を敷くなど簡易な形とする。無駄なくスペースを使え、コストも抑えることができる。

- ・アクティビティエリアについては、静かなエリアとしてインフラを設える。また、アクティビティを共有できるエリアであり、オートキャンプ場、バーベキュー場、簡単なフェスなど多目的な要素を踏まえたレイアウトにしておく。

- ・以上全体の構想となるが、今年度の計画では、整備にあたっての時間や予算的にハードルが高い。ゴールに向けた段階的な整備として、大きく3ステップでに分けた計画とした。

- 1ステップ 今回のエリア整備（駐車場、簡易な形で）。発信機能の整備。

- 2ステップ アクティビティゾーンに拡張。街との繋がりが見えてくる。

- 3ステップ 敷地全体を季節に応じて最大限活用していく。地域との連携が根付いてくる。

○意見交換

▼豊島

- ・ポイントは、ランドマークであること、やさしいこと、病気、親子連れ、将来の自分、環境に配慮。

- ・課題は、普通トイレの整備が必要だが、浄化槽が必要となり費用がかかる。また、雨除け、日よけが必要。

▼藤巻

井上氏の説明を受け、3ステップまでであるが、何年くらいを見込んでいるか。3ステップまで、段階的に予算の保証がないと2ステップに向けて動けないのでは。

▼矢代補佐

今年度40,000千円、次年度20,000千円をあてにしているが未定であり、できる範囲となる。

▼豊島

事業の方からすると、1ステップで可能性を示せなかったら、2、3ステップがないといった追い詰められたところでもあり楽しみでもある。今年度、広く展開していく予算については、無いと伺っている。その中で、インフラ整備をする予算として市に要望として出してもらうのは良いと思う。

▼鈴木

1ステップは構築物の設置、2ステージはインフラ整備しかないのか。

▼小柴補佐

来年度、国の交付金の申請してある分については、整備工事として 21,591 千円、備品購入は 9,000 千円、併せて約 30,000 千円が実施計画となっている。

当初の申請の方法としては、エリアマネジメントセンターを市民会館周辺に整備することを想定して予算計上されたものだったが、昨年度、執行にいたらず、昨年度の予算を今年度に移行した際に、エリアマネジメントセンター機能を市民会館周辺から、海辺周辺といった形に文言を変更している。こういった機能を整備していく中で、お金をどのように使っていくかということになる。

▼久根崎

残っている予算をつぎ込んでいった方が良い。中途半端にものごとを進めていてもよいものはでき上がらない。来年度、降りてくる金額 3,000 千万で間違いはないか。

▼小柴

ハードに関して 30,591 千円。これ以外にソフト事業としてエリアマネジメント組織運営支援補助金 6,800 千円、プロジェクトマネジメント体制強化 2,000 万。

▼鈴木

可能な限りお金をつぎ込んでいくとなると、毎年実施している年間のイベントもこの時だけ見直すということにはならないか。そもそもプラットでお金の使い方を集約していくという流れにあったはず。

▼渡辺

良いバランスで実施していただきたい。

▼林

様々な取り組みが提案されているが、誰が請け負うのか。

▼豊島

住民は仕事もあり、片手間で事業を行うことは不可能と考えた。自立していくためには、立ち上げる人を招き、我々が支援していくというスタンスが良いと考えている。やりっぱなしは避けたい。

▼渡辺

立ち上げる人は、営利目的の副業化といった形が理想だと思う。

▼久根崎

軌道にのるまで、金は出て行ってしまうと思うが、市としては指定管理など支援する考えはあるか。

▼佐久間

青島ビーチパークのような指定管理は、方法の一つだと考えている。

▼鈴木

構想によって管理業務となると、現在、プラットフォームと観光案内所のオフィスを統合するなどで、人件費は節約できる。プラットとの統合で大所帯になると建物の規模が必要になる。

▼豊島

・将来像を分けて考える必要がある。当時、エリアマネジメントセンターは、市民会館の跡地の活用と

して必ず必要となるということから、今回では、まずフィッシャリーナに整備することになった。これは、今後の2ステップの段階といったところで、そこまで考えると切がない。現在、土地の管理に係る維持管理費用はかかっていない状況の場所にどれだけ投資するか市の財政としては冷静に考えるべきだと思う。

・いかに0.5人工でプラスアルファの仕事ができるような起業及び事業を行い、かつ気持ちよくフロントをしてくれる人材でないといけない。ウェルカムトークができ、インバウンドも対応可能にしたい。

▼渡辺

民間配分構造を重視する採算性があり問題ないと思うが、民間が入ってこない場所をいくら手掛けても無駄だと感じており、スタイリッシュな空間を演出し魅力がある空間を創出することが大切。

▼久根崎

原案だと少し集客力に欠けるのでは。要素が不足する気がする。

▼豊島

おっしゃるとおり、今のところが一番悩んでいる。目玉となる事業の構築が無い。できれば漁協との連携が一番良いが、現状の関係性を聞くと進展しないと判断せざるを得ない。収益性に関しては相当悩んでいる。

▼佐久間

夏は、イベント等による集客があるので、オフシーズンで集客を図る仕掛けを考えていきたい。

▼豊島

自分たちが実施するイベントを増やしても疲弊するだけ。イベントがそこまで収益に貢献するとは思っていない。人材をプールすることが、今回の取り組み。

▼藤巻

収益を見込めるなら行う、なければやらない。サーフィン、カフェ、駐車場しかなく収益が心配。

▼渡辺

気をつけることは、スタイリッシュにすることである。

▼川井

サーフィンに関して、当該体験スペースは狭い。10人でいっぱい。テトラポッドを取ってほしい。

▼橋詰

初心者、サーフィンで検索しても、一宮の情報ばかりで鴨川が出てこない。サーフィンが軸で、そこに素敵なカフェがあれば良いと思うが、ただのカフェでは行こうと思わない。

▼林

モンベルなどアウトドアの店が一軒もない。誘致したらどうか。

▼豊島

特定のブランドショップについて、公共の投資としては今の計画の形でよいが、誘致すべきものについては、候補者になるような企業を今後あたっていきたい。

▼鈴木

建物の形状は大きく影響する。モンベルもお金を出すから一緒に開発するというのが一番良い形。

▼渡辺

サーフィンの取り組みに関して、所管は、鴨川プラットフォームとなっている。しかし、一回しか実施しておらず問題ではないか。

▼刈込

備品に関して、市民会館の2階に保存されていること確認している。この備品の活用については、今まではノープランであり、貸し出しについても料金が決まっていない状況だった。従来は一切動きがなかったが、現在、これら備品を利用するの取り組みができる方を何人かあたっている。

▼渡辺

備品運用はプラットフォームとなっている。備品を購入したのだから、有効に使う仕組みづくりをしていかなければならない。

▼刈込統括

ほかにもグランピング、キッチンカーについても一、二回しか使用していない。腐らしていても無駄になってしまうので活用に努める。

▼鈴木

プラットフォームに運用し活用していける力（ノウハウ、人材）はない。直営ではなく、入る人（企業）に託していけば良い。

▼豊島

論点はいかに活用するかだと理解している。まず、所在を確認しこの計画にいかにか上手にとりこむか、また、ハードに加えソフト部分についてもアイデアを出してほしい。旅行業に絡む時がくるので是非連携したい。

▼川井

サーフィンについては、夏に限らず年間というが、冬にプロムナードを歩くのは寒すぎる。バギーなどの移動手段が有効。すぐ温水シャワーを浴びられる環境が必要となる。市民会館前には温水シャワーがあり快適。保管場所を決めて、温水シャワーも簡易的なものでも設置する。椰子の木のロケーションは良いが、電線が最悪。写真映えしない。

▼矢代補佐

海側ではなく、道路側に電線を通す方法が考えられる。

▼川上

1ステップの動きで、ゾーニングは非常に良い。全体を見渡すと協会 BBQ、ビーチボックス、花火大会、駐車場、港、商店街など、全体をみると予算が少なすぎる。次に続く兆しを感じるので、最低限の箱ものは広く展開をする際に必要と考える。

太平洋、定置網、小湊、太海が見えるような場所になると良い。また、トイレを既存のものにするか親切するかが難しいところである。

今後、環境面も含め、どのように予算を確保していくかが課題。

今季中は、ない予算の中でどこまでできるか。しかし最低限の整備であっても、次に続く兆しが見えれば、また、イメージづくりになれば、今年度 5000 万の予算を投与する価値があると思う。ゾーニング、設計よりも煮詰める時間にした方が良いのでは。

▼岡野

7月中に将来像を描いておくべき。市が言ってほしい。

ビーチスポーツを提案したが、各団体とモニタリングを重ねることが重要。市がどれだけ根回し、リサーチができていないか、ヒアリングをしてあるかが大切なこと。

グランピング購入備品を買って終わりたくない。いろいろやるのはすばらしいが、聞き取りしているか。

▼渡辺

大きなながれとしては、確認済みとして良いのでは。このあとの仕組みをどうつくるかが課題。

▼久根崎

乃村工藝社には、市民会館を含めてイメージ画像を考えていただけるとありがたい。

▼刈込

備品の活用については、預かっている状況。人脈を活用し、個人的に声を掛けた人たちがいるので、その人達は断って良いか決めてもらいたい。

▼渡辺

一緒に相談させてもらってから回答する。

▼鈴木

箱物の中身をどうするかが重要。1ステップの成功がポイント。

▼豊島

新たに運営展開を行うスタッフに対しては、仲間づくりに協力してもらいたい。

▼渡辺

12月に今年度整備の入札を行なう。8月から9月にかけて、ソフトの仕組み、マリナクティビティサーフィン、サイクルステーション、温水シャワー、カフェ、BBQ、受付など訂正したものを9月の議会に報告する予定。

▼久根崎

いままでの話の中で、受付、倉庫、カフェ（収益）、芝生広場とあった。鴨川温泉も活かせるのでは。

▼水谷

カフェに関して競合しないか。地元同業者がいるが・・・。

▼藤巻

手をあげていない時点で興味はない。将来ビジョンが見えてこない。

▼渡辺

説明としては、既存のカフェとの競合ではなく、ともに盛り上がって客層も広げていくという考え。

▼井上

タイニーエリアについては、アスファルトではなくウッドチップなど変更活用ができるように整備する。

▼佐久間

前原横渚海岸の整備については、元は護岸だけだったが、昭和56年にしおさい公園を整備（第1弾）し、海水浴場以外にも人がある集まる公園を造ろうことで始まった。

平成13年に、漁港を通過する漁船が危険であるとのことから、市の参画構想に掲げ、多目的漁港としてフィッシャリーナを整備（第2弾）した。今般、海辺の魅力づくりの取り組み（第3弾）となっており、長期目線で作り上げていくといった姿勢でお願いしたい。

次回の会議について、8月26日午後2時00分から開催予定。

4 閉会（午後4時00分）

鴨川市附属機関等の会議の公開に関する実施要領第7条第3項の規定により、会議録の内容について確認します。

令和元年7月26日

林 良樹

水谷 好伸
